

平成 23 年度 大学職員情報化研究講習会～基礎講習コース～

**教育環境を充実させることによって
魅力ある大学をつくり、学生の満足度を上げる**

メンバー（所属大学、氏名）

神戸女子大学：荒木啓，大阪歯科大学：栗村法往，西南学院大学：副田大樹，
和光大学：西川諒，立正大学：中里裕子，京都産業大学：良川侑史，日本工業大学：草間信太郎

課題認識

【各所属大学・職場での問題点洗い出し】

テーマを選定するに当たり、参加メンバーの所属大学・職場が抱える問題点の洗い出しをした。
主な問題点として、以下の 6 点が挙げられた（第 1 表）。

第 1 表 大学・職場が抱える問題点

学生のモチベーション維持が難しく退学に繋がってしまう。
就職率の問題（経済不況による低下、学部間の違い）
部課内での情報共有不足による業務への支障
教員と職員のコミュニケーション不足
大学のアピール不足による学生 mismatches
教員や職員の教育や研修制度がない。

【テーマ設定】

以上の問題点より、大学において一番重要なことは何であるかグループ内で討論したところ、
「学生がこの大学に来て良かったと満足してもらおうこと」という結論に至った。そこで、大きな
テーマを「学生の満足度向上」とした。そして学生の満足度向上を実現するために、まだまだ改
善の余地があると考えられる、教育環境に焦点を当ててテーマを設定した。

この「教育環境」とは、施設・設備といったハード面のみならず、講義や課外活動などのソフト
面も含む「大学における学生の学びの場」全てのことを指すものとした。

討論内容

大学の教育環境を充実させ、学生の満足度を向上させるには色々なアプローチが考えられる。
そのため、本グループでは、まず初めにどのような満足度向上の手法があるか、カードを用いた
アイデア発想法に基づいて、各々 3～4 個、計 30 個程のアイデアを出していった。

提案されたアイデアは同じ種類ごとに分類分けし、次頁の 8 分類に分類することとした（第 2
表）。

第2表 充実させるべき教育環境

教育システム	教室設備	課外活動	学生の意見抽出の場
相談の場	授業	学習効果向上策	情報開示

提案内容

教育環境を充実させ、学生の満足度を向上させるために重要な8分類について、各々の導入手段を以下のように提案する。

■教育システム

ただ教育システムを導入するだけに止まってしまっただけでは、大学にとって不完全である。なぜなら、導入したからといって、学生がそれを知ることがなければそもそも利用することが出来ない。そのため、教育システムは導入するだけでなく、周知徹底することも重要である。

○導入手段：学校ポータルサイト、e-Learning（資料配布、アンケート、レポート提出、掲示板）、授業録画公開システム

■教室設備

教室設備は、授業を行う上で非常に重要な要素である。そのために、これら教室設備を充実させることはもちろんのこと、不具合が生じたらすぐに対応する体制や不具合をあらかじめ予防する体制も充実させることが大切である。これによって授業をスムーズに進行することが出来る。

○導入手段：パソコン、無線LAN、書画カメラ、プロジェクター、VHS、DVD、マイク

■課外活動

学生の満足度を向上させるためには、授業以外のコンテンツの充実も必要である。課外活動においては、学生が主体的に取り組める環境を整えることで、社会人基礎力も身につけることができる。そして結果的に学生の満足度向上に繋がる。

○導入手段：大学施設の積極的開放、部活動・サークルに取り組みやすい環境整備

■学生の意見抽出の場

大学の教育環境を、教職員のみならず学生の目線から見ることによって、これまで見つけることが出来なかった改善点の洗い出しを行う。そして、洗い出した改善点を現場にフィードバックさせることで、教育環境のさらなる充実を目指す。

○導入手段：学生意見箱の設置、学生・教員・職員で話し合う機会の設置（学生総会）、学生SNSを通じた意見集約

■相談の場

学生同士のコミュニケーションを活発にさせるためには、大学側から積極的に機会を設ける必要がある。そして機会を設けるに止まらず、それについて学生に周知徹底させる必要性もある。

○導入手段：4年間同一のクラス（クラス担任制）、相談窓口の充実（総合窓口の新設・増設、学

校ポータルサイト)、コミュニケーションの場を提供 (カフェテリア、談話室)

■授業

大学における授業の充実については、多彩な取り組みを導入することで学生にとって魅力ある授業を実施することが重要である。それに加え、入学から卒業までのビジョンを明確に提示し、学生生活におけるスモールステップの目標を細分化する。これによって、達成感が得られるような充実した学生生活を送れることを目指す。

○導入手段：学生発案ゼミ、学部間を越えた授業、授業評価で高い満足度のものを教員に映像配信 (教員教育)

■学習効果向上策

よりよい学習環境を整え学習効果を向上させるためには、施設・設備の面からだけでなく、人とのつながりを深めることも大切である。

○導入手段：教員が学生の情報を把握、学生が学生を支援する仕組み (ピアサポート)、PC インストラクターの配置

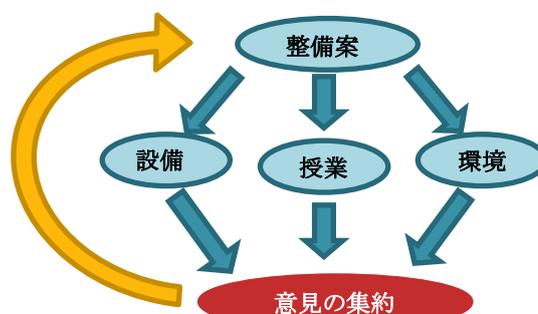
■情報開示

受験生や在学生在が、必要な情報をスムーズに得られるよう整備することが必要である。その結果、受験生に対しては入学後のミスマッチを減らし、学生は、より一層充実した学生生活を送ることが出来る。

○導入手段：学生 SNS、大学 HP の充実、PC がなくても情報収集できる環境整備 (掲示板)

まとめ

大学の教育環境には、改善すべき点が数多くある。職員はこれらの改善点に対して主体的に取り組まなくてはならない。そのためには教員と連携をとっていくことも求められる。さらに教員、学生から改善に対しての意見を集約し新たな改善点を洗い出し、フィードバックする (第 1 図) ことで、教育環境の改善を行えるサイクルを構築していく姿勢を心掛けることが大切である。



第1図 フィードバックによる教育環境改善

以上